

奇跡の生還ーチリ鉱山・33人の69日ー

1 主 題 共生について考えよう

2 主題・教材について

私たちは、日々の生活の中で多くの人と関わって生きている。その関わりの中では時として利害の対立が生じる。そのような場面において、互いがあくまで自身の権利を追求し、主張していたのでは問題は解決しない。両者が話し合いの上、折り合いをつけることで問題の解決がもたらされる。

社会においては大勢の人が共に生きる中で、そうした場面があちらこちらに存在する。そこで、同様の事象をまとめ、解決するためのルールが作られていく。このルールに則った安定した望ましい状態を「秩序が保たれている」と呼んでいる。

ところが、秩序やルールに対しては自由を束縛するものというイメージをもつことが少なくない。とりわけ、過去から受け継がれてきたものについては、それが作られた理由や必要性が忘れ去られたり、状況が変化したりしてしまった結果、本来の意義を失い、好ましくないイメージだけが残されていることも少なくない。そのような状況に対し、秩序やルールについての認識を正しくし、共生社会においてなくてはならないものと捉えることが求められる。

この教材では、チリの炭鉱で起こった落盤事故を通して、生死の狭間で当事者たちが自分たちで築いた秩序やルールを守り、互いが支え合うことで、全員が「奇跡の生還」を果たした事実を学ぶ。苦しい中で共通の願いをもち秩序を守り命をつないだ人間の強さ、人と人がつながることの素晴らしさを感じさせたい。その上で、人が共に生きる社会において、人を幸せにする秩序はなくてはならないものとして捉えさせたい。

(関連領域：道徳、特別活動)

- 3 ねらい
- ・秩序やルールは、人を幸せにするという共通の願いの上に作られるべきものであることを知る。
 - ・人間が共に生きていくには秩序が必要であることに気づく。

4 展開例

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	人間が集団で生きていくために必要となることを考えよう。		
	・人間が集団生活をするために必要となることを考え、出し合う。		
展開	33人の生存が確認されるまでの作業員の気持ちを考えよう。		
	・本文（全文）を読み、落盤事故現場の過酷な状況と地底に閉じ込められた作業員たちの気持ちを読み取る。	・食料をはじめとして、生きていくために必要な物が極度に乏しい状況であることに気づかせる。また、死に直面している作業員の気持ちを想像させる。	
展開	「奇跡の生還」ができた理由を考えよう。		
	・どうして「奇跡の生還」ができたのかを考える。	・特に以下の点に着目させたい。 ①「生きる」という希望を持ち続けたこと。 ②自分たちで作った秩序を守り、互いに助け合ったこと。 ③「一人も死なせない」という共通の強い意思をもち続けたこと。	

展 開	「共生」と「秩序」について考えよう。	
	「秩序（を守る）」に対して抱いているイメージを発表する。 「共生」するために必要な「秩序」とはどのようなものかを考え、意見交換を行う。 - 日頃から、自分たちの生活の中で秩序やルールを守ることや、助け合うことの大切さについて考え話し合う。	- 秩序は自由を束縛するものではなく、人々が安心して生きていくためにあるものだと気づかせたい。 - 自分たちの生活の中にある「秩序」が「共生」とどのように結びついているかを考えさせたい。
ま と め	学習をふり返ろう。	
	学習を通じて考えたことや感じたことをふり返り、今後の行動について考える。	身の周りにある具体的な秩序やルールについても目を向け、なぜ作られているのかを考え、納得して守ることにつなげる。

5 発展

この教材は「2 こんなクラスにしたい」で作った「クラスの約束（ルール）」をふり返る際に活用することもある。